

# 日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No. 62

2012 -9- 15

한일 시민 네트워크 · 나고야

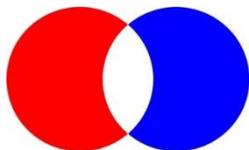
Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃

〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238

TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



目次

紺青

P 1 事務局通信

P 3 会の活動報告とお知らせ

P 4 光州学生訪問団・感想文

P 11 ホスト・感想文

P 15-16 お知らせ・ひろば

統括幹事：後藤和晃

事務局

光州訪問団 8名

ホスト 6名

事務局 & 石田樹梨

## 事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事・後藤和晃



### 1. 別れの涙に 15 年前回想

～ 光州学生交流団帰国 ～

8月6日の朝、9時半、第7次光州学生交流団のメンバーは手を大きくふりながら空港の出発ロビーに入って行きました。送る側を見ると、今回初めてホストを担当した女性のSさんが、すっかり涙ぐみながら懸命に手を振っているのが目に入りました。とたんに15年前の交流団との別れの光景が臉(まぶた)の裏に甦ってきました。1998年、私たちの団体がスタートしたその年は「大田ブルース」に歌われた街、大田から学生交流団を迎えました。会がスタートしたばかりでしたから、ホストを引き受けた会員のほとんどが、外国人を家庭に迎えるのは初めての体験でした。そのせいか、空港で韓国の学生を見送る時には、幾人ものホストの女性がほろほろと涙を流していたのです。わずか3泊4日のホームステイでも日本人と韓国人は互いに涙を流すことが出来るほど言葉の壁も越えて親しくなれるのだ！と感動を覚えたものでした。あれから15年、日韓の間を往来する観光客が500万人を超える時代です。別れの時に涙する光景は、あまり見られなくなっていたのですが、Sさんの涙に15年前の感動を思い出すと共にホームステイの意義を再確認したものでした。

### 2. 交流の夏の異変

光州交流団が帰国してわずか4日後の8月10日、日韓の間の空気が一瞬にして凍りつきました。



李明博大統領が韓国の大統領としては初めて竹島(韓国では独島)に上陸したのです。戦後、間もなく李承晩大統領が日本海の上に李承晩ラインを設定、その韓国側に竹島(独島)を取り込みました。以来、年を追うごとに韓国は島の実行支配を強めてきましたが、日本と決定的に対立することは避けるため、大統領が島を訪問することはありませんでした。しかし李明博大統領は今回、島に上陸しただけでなく、数日後には「天皇が韓国を訪問したいのなら独立運動で亡くなった人々の遺族を訪ね、心から謝罪すべきだ！」との強硬発言を行なったため、日本中から一斉に大きな反発の声が上がったのです。これまで竹島(独島)の問題で国内世論が沸騰するのは必ず韓国側でした。島根県が竹島を島根県の一部に編入したり、日本の教科書に



media KHAN 2011.10.10 경향신문

「竹島は日本の領土」との記述が載ったりする度に、国を挙げて猛烈に抗議し、日本国旗を焼く光景まで報道されたものでした。ところが今回だけは、日本の一般市民が李明博大統領の言動に大きく反発しました。韓国の大統領の言動に日本の市民が、これだけ不快感を表明したのは恐らく初めてのことでしょう。

思い返してみましょ。この 10 数年間、日本と韓国はひたすら相互理解と和解への道を歩んできたように思います。日韓和解のために最も功績のあった人物は、韓国の故 金大中大統領だったことに異論を挟む人はいないと思います。一方、著名な日本人の中では、誰が一番、韓国との和解に努めたかと言えば「それは今の天皇陛下だ。」との声に、これまた異論は出ないでしょう。

韓国に関心のある人なら 2002 年の日韓ワールドカップ共催を控えた 2001 年の暮の天皇誕生日の記者会見で、陛下が発言された内容を決して忘れていないでしょう。天皇は「私自身は桓武天皇の生母（高野新笠＝たかのにいがさ）が百済の武寧王の子孫であると続

日本紀（しよくにほんぎ）に記されていることで、韓国との深いゆかりを感じています。」と語られたのです。実は 2001 年は教科書問題や小泉首相の靖国神社参拝などで韓国の世論が沸騰し日韓の間に暗雲が垂れ込めていました。この年の最後に天皇が発せられた言葉で日韓両国民の心が一気に明るくなり、ワールドカップ共催の成功へとつながったのです。このように歴代の天皇の中でも最も日韓の融和を願っておいで今の天皇に対して、李明博大統領の発言は余りにも礼を失しているというのが、マスコミばかりか、一般市民の反応です。そのためにか韓国への旅行客が減っているとか、「韓流の街」として有名になって東京の新大保を訪れる観光客が急減していると言われています。

### 3. 再び冷静な民間交流を！

李明博大統領の言動は、任期の最後にあたって歴史に名を残そうと焦った揚げ句のパフォーマンスとの見方も少なくありません。そうした李明博大統領の言動に反発するあまり、交流の道を閉ざすのは、今の天皇や 故 金大中大統領 の決して望む所ではないでしょう。

私たちの団体は会員 100 名余りの小さな団体ですが、これまで日韓の間にどのような波乱が起きても、市民交流の道をひたすら歩き、韓国の至る所に生涯の友を作ってきました。留学中の学生会員も、極力、現地にとけ込み、友だちを得ようと努力しています。今回ホストをつとめた女子大生たちも間もなく、ソウルの大学に留学に向かいます。

日韓の間に、暗雲が垂れている今こそ、着実な市民交流の存在価値が高まっています。私たち会員一人一人の小さな努力が、市民交流の明日を拓いていきます。光州学生交流団の来日を支えていただいた皆さんに深く感謝すると共に、今後も市民の立場での日韓交流を着実に進めていただくよう、心よりお願いします。



# 会の活動報告とお知らせ

모임의 활동 보고와 통지



## 光州学生訪問団の受け入れ

<訪問団スケジュール>

8月2日(木)	11:00	中部国際空港着	～	バスで奈良法隆寺へ	～	奈良ユースホステル泊
3日(金)	9:00	ユース発		平城宮跡(朱雀門・大極殿)～東大寺(二月堂・大仏殿)		
	18:00	名古屋国際センター着				ホスト宅 泊
4日(土)		終日ホストと自由行動				ホスト宅 泊
5日(日)	16:40	自由行動後、名古屋韓国学校に集合				
	17:00～19:00	交流パーティ(交流団含めて58名参加)				ホスト宅 泊
6日(月)	9:50	中部国際空港集合		見送り		

<訪問団関係 会計報告>

### 1) 交流のタベ

収入	会費	108,000	支出	料理・飲物 (伊藤)	82,206	※接遇費用に繰入れ
	3500 * 26			食器類・雑費 (伊藤)	9,386	
	2000 * 6			会場の飾付け (須田)	4,416	
	1000 * 5			会場費 韓国学校	20,000	
	寄付金	174,000		計	116,008	
計	282,000					

### 2) 訪問団に対する接遇・支援費用(寄付金より充当)

収入	寄付金 残	165,992	支出	奈良旅行経費(鈴木幸)	197,194	
	3月 預り金	100,000		空港・反省会(鈴木幸)	5,175	
	計	265,992		計	202,369	

### 3) 寄付・寄贈品(敬称略)

顧問・協力者	会員		会員			
	岡崎 洋子	3,500	日本酒2本	二日市 壮	5,000	
石原 俊洋	10,000	小出 宣昭	5,000	松尾 博雄	5,000	
金 龍鐘	10,000	小坂井多恵子	3,000	松澤 美穂子	4,000	
会員		後藤 和晃	5,000	松田 哲育	ETC (10,000相当)	
		堺澤 一生	3,000	松山 純子	キムチ	
石田 洋子	3,500	佐藤 昭子	2,500	手作り料理	三尾 和廣	3,000
伊藤 みつ子	1,500	田口 良浩	5,000	宮本 昌子	3,000	
伊藤 義郎	5,000	武田 嘉恵	2,500	村手 玄	3,500	
井上 靖代	2,000	出口 和代	3,000	安田 守	5,000	
井ノ口 俊子	5,000	土岐 良文	3,000	山下 智子	3,000	
大久保 孝造	5,000	長澤 進	10,000	山田 あき子	3,000	
大嶋 明	1,500	長田 竹子	2,000	山本 玲子	5,000	
太田 道子	3,000	原 和夫	3,500	匿名ご希望	20,000	
加藤 淳子	10,000	韓 一星	5,000	匿名ご希望	2,000	
				計	174,000	

初めて1人で引率するキャンプなので、不安もあり緊張もしたが、参加者たちもしっかり付いて来てくれたし、市民ネットの皆様のご協力もあって無事に全日程を終えることが出来ました。暑い気候にもかかわらず、全日程を熱心に企画・進行して下さいした後藤さん、鈴木さん、山田さん、鈴木さんをはじめとする市民ネットの全メンバーのお陰で沢山学ぶことが出来、楽しかったです。そして、ホストとして迎えて下さった内藤さんのお陰で心に余裕が出来、韓国とは違う文化を経験する貴重な時間となりました。尽力して下さいの皆様、心より御礼申し上げます。

奈良の旅行を通じて、歴史の教科書でしか得られなかった知識に直面しました。日本には、中国で始まり、韓国を経由して日本に入ってきたという独特な文化を発展させた部分が多いということは知っていましたが、実際に奈良に残っている文化財を自身の目で確認し、お互いの関係を確認することが出来ました。もう1つ。これらの文化財は日帝時代に我が国の義士とは関係なく奪われたものだと思っていたのですが、高麗時代の仏教文化が朝鮮時代に弾圧を受けながらも日本に伝わったものなのです。この旅行で、誤解が解けました。

最近、フランスに奪われた外奎章閣図書(※)を私たちに完全には返還せず、永久賃貸という形で返還されたとき、やはり歴史的事件の中でどこまでを各国固有の領域で尊重し、「略奪」という単語が使えるのか。私は疑問に思いました。日本と韓国の間でも、文明という微妙な領域が共存しています。普通なら、この危険な領域を刺激しないよう努力しますが、自国の利益だけを考えたり自尊心を傷つけたりしないよう幼稚な言行に終始する人もいます。時々、「あの人には過去の歴史に対する一抹の反省も、変わろうとする考えも無いんだ」と感じさせられる日本の政治家の発言を聞くと、両国がより近づくためには今後も大変な努力が必要なんだと思います。日韓市民ネットワークのような団体が増え、韓国に対する深い省察を基として民間レベルの交流活動を通じ、お互いを理解し、努力しながら両国の関係が深いものになることを願っています。

日本旅行は行ったことがありますが、ホームステイの経験は無く初めてだったので、心配しつつも楽しみでした。内藤さんのお宅で過ごした日本の日常生活はとても平穏で楽しいものでした。内藤さんご夫婦が両親のように暖かく接してくれて、まるで夏休みに故郷の実家に帰ってきた子供のように過ごしました。内藤さんが飼っている猫の「フウ」ちゃんも、逃げるこ

なく近づいてきてくれて、嬉しかったです。

内藤さんと一緒に韓国語を勉強する友達に会い、日本の田舎で行われるお祭を見て、韓国でもこの様な村の共同体が活発に活動していたらと思いました。日本の伝統が根付いているのは、この様な活動を老若男女問わず共に行い、それを続けているからなのでしょう。2日目に訪ねた有松絞りの伝統も、その独特な染色技術をお婆さんだけが知っているのではなく、若い女性も共に学び新しい視点で更に発展させているので、今後もこの輝きは失われることは無いでしょう。韓国では、多くの伝統文化に若者が興味を示さないため、失われつつあるという話を耳にしたとき、他人事のように考えていたことが恥ずかしくもなりました。



交流パーティーでは、我が国の学生以上に韓国のことを知るために努力している多くの方々と話をすることが出来ました。そして、光州YMCAで今までの交流に対し、感謝の気持ちを伝える機会にも恵まれ、本当に嬉しく思います。我が国の伝統楽器を美しく演奏する日本の学生たちの姿を見て、参加した我が光州の学生たちは自身がろくに扱えないのに外国の若い学生がこうして上手に演奏するのを不思議に思っていたようです。最後にアリランと一緒に歌うときは、ギクシヤクしていた両国の感情が1つになれた気がしました。

少しの間経験した日本の断面を通じ、私たちは違う点が多い分学ぶ点も多いことに気づきました。そして、その部分が韓国と日本をより近いものにする契機になればと思います。日程を終え、短くて名残惜しいと言う参加者の言葉が何よりも嬉しかったです。こうして日本の友達と楽しく過ごすことが出来ただけでも、日本という国に対して抱いていた恐怖や偏見を解消させ

られたことが何よりも幸運だと思います。この経験を通じ、世界を広く見渡せるようになった子供たちが成長すれば、両国の関係も友好的に発展しますよね？私は信じています。

※外奎章閣図書＝江華島に設けられていた外奎章閣（王室の文書館である奎章閣の別館）で保管されていた、王室関係記録のこと。1866年の丙寅洋擾（＝朝仏戦争）でフランスに略奪され、長らくフランス国立美術館で保管されていたが、昨年6月に賃貸という形で韓国に返還。現在は韓国国立美術館で保管されている。



## 偏見の井戸から抜け出す

송성은 (ソン・ソンウン)

思春期の絶頂を彷徨っているとき、姉は日本の文化に浸っていた。日本のアニメやドラマ、マンガ、音楽など、1日たりとも楽しまない日はなかった。俗に言う「オタク」の初期段階だったと思う。（今はさほどでもないが）何時間もパソコンとにらめっこする様子は、私には良いものには見えなかった。その時からだろうか？「日本文化」と言えば、その時の姉の様子だけが思い浮かぶし、少しばかり拒否感を感じるようになった。

大学に入り、外国人の友達と付き合うようになった。台湾、中国、香港、フィリピン、フランス、アメリカ、そして日本等。どこの国よりも、日本から来た友達と初めて接するときは少し辛かった。以前から私の頭の中に占める日本のイメージは、あまりにも否定的だったからだ。しかし、その日本人の友達は皆静かで礼儀正しかった。おまけに似ている部分もあるし、韓国語も上手で韓国人と思えるようにもなった。こうして友達に対する拒否感は少しは薄れていったが、日本という国自体に対する気持ちは思春期の憂鬱に押しつぶされていた。

夏休みに入り、しばし家に帰って父の仕事を手伝うことになった。しかし、その見返りに突然日本へ送り出した父。いっそのこと、アメリカやヨーロッパへ連れてってくれと言いたかったが、家の事情は知っていたし、登録費の問題や自炊しながらも増える生活費のため、申し訳なくてとてもそんな希望は切り出せなかった。それでも、旅行に送り出した先はどこか。YMCAが主催するキャンプには何度か参加したが、今回もただ観光するだけのキャンプのように考えていた。父がメールで大まかに説明してくれたが、翌日も忙しくなりそうで大まかに見て報告書を送った。

キャンプまで、残りわずか。生まれて初めて喪失感を味わった。体育館に行っても力を出せず、本を開いても文が目に入らない…。しかし、他の人たちを巻き

込むわけにもいかず笑ってはいたけれど、中身は既に疲れてしまっていた。迷っていた。このキャンプに行かなければならないのか。辛いとか、忙しいとか理由をつけて行くのをやめるか。親しい先輩から「気分転換を兼ねて行ってみれば良いんじゃない？」と言われ、ようやく決心することが出来た。

我を忘れて過ごした後、2日前になってやっとプログラムの構成を知ることが出来た。日本の家庭に泊まることになるとは。日本語は全く話せないのに、言葉が通じるのだろうか。また、日本の文化に私が触れることになるとは。不安だった。気まづくならないだろうか。まだ心の準備が出来てないのに？もう知らない。出発までとにかく時間をつぶすことにし、キャンプに出発した。期待もしていないし、不安も多い…。ただ、後々煩わしい部分もあったけど、従姉弟が一緒に行くことになり少しは安心した。彼らに気を使いながらも、寂しさと不安は少しずつ消えていったのだった。

仁川空港に到着し、チェックインを待っている時、モンゴル人の先輩に会った。夏休みを利用して中国へバックパッカー旅行に行くそうで、ウキウキした表情で挨拶していた。私にも少し分けて欲しかった。でも、少し気分が楽になったところで出発することが出来た。夜中に出発する旅程だったので疲れてはいたけれど、名古屋に着くまで気持ちよく休むことが出来た。

名古屋空港で、父が話していた後藤さん他日本人の一行に会った瞬間、ドキッとした。韓国語が話せない方もいるようで、そんな方を前に更に冷や汗が出た。バスで移動する間、四方から聞こえる日本語に不安と戸惑いを隠せなかった。

こうしてしばらく移動すると、車は「奈良」に到着した。「奈良」という地名の起源は、韓国語にあると言う。我が国の伽耶族の宗家の内の1つである「ウガヤ」人の船に乗って今の奈良県に到着し、建国したことに由来するのだそうだ。そのせいか、奈良の所々に

は伽耶と百済の痕跡が残っていた。初日の法隆寺から、翌日の平城宮跡・東大寺まで、一番衝撃的だったのは、我が国の遺産になった数々の仏像は、この日本に来てから日本の国宝になり、保存されていることだった。このような場合、私たち韓国人は壬辰倭乱（文禄・慶長の役）の時や日帝支配時代に日本が奪ったと思ひ込む。しかし、実際は遥か昔、韓半島に儒教が伝来し仏教の排除が始まったため、当時の政府が仏像の多くをあちこちに売り渡したと言うのだ。私たちの遺産がこうして今まで保存されていると言う安心感と、私たちが守れなかったのにむしろ違う国でちゃんと保存されているという事実が顔を赤らめることにもなった。我が国の文化に対し関心を持って下さっている後藤さんの姿を見ると、これまで断片的で歪曲された姿だけで日本の文化に拒否感を持って生きてきた私が恥ずかしい。

初日の夜、最初で最後のキャンプ参加者同士の交流。こぢんまりとしていたが、とても楽しいパーティーだった。日本の人たちと韓国の学生たち。意思疎通はちょっと難しかったけど、楽しく遊んでいると韓国だの日本だのという要らぬ感情が薄れ始めていた。ゲームの後は外で花火を楽しみ、こうして私の気持ちは、偏見の井戸から抜け出していった。

1泊2日間、私のホストである志保と急激に親しくなった私は日本文化に対する緊張と不安は既に忘れてしまっていた。電車に乗って知多市の志保の家に向かう。家に入るときはとても緊張していたが、志保のご家族がとても親切だったので緊張は和らいでいった。知多は見てみると田舎のようで田畑が多いが、我が国の田舎と違うのは全てが整っているという点だった。そのせいか、殆どの家は2階建てで前後どちらかに庭があり、本当に住みやすいところだった。部屋に荷物を置き、志保と2人の妹・サオリとナナコも一緒に、近所の親戚の家に遊びに行った。志保のいとこの家の前庭で私たちは再び花火で遊んだ。皆でオリンピックにちなみ五輪旗を描いたり、スマイルやLOVEと描いたりもした。言葉があまり通じなかったが何とか会話は成り立ち、楽しく遊びながら二日目の夜は美しく輝いていた。

朝、ゆっくり起きて向かったのは、100年余りの伝統がある日本の旅館。日本風の小さな庭と部屋、そして宴会席。豪華絢爛なホテルではないけれど、日本の文化と歴史が宿るところだった。無条件に新しいものを追い求める我が国の様子とは違い、伝統を頑なに守り続ける姿がとても素晴らしい。我が国にも昔のジュマク（宿屋を兼ねた居酒屋のこと）が今も残っていたらどうだっただろう……などと考えてみたが、日本のように伝統を守るのは厳しいと思った。そんな部分から、私たちが日本に学ぶ点が多いことに気付かされた。昼食は、志保・ナナコ・そしてお母さんと一緒に



お好み焼きを作った。我が国のジョンに似ていると教わったお好み焼き。日本食の居酒屋で食べたお好み焼きを直接作ってみると、色が違うのが不思議だった。おまけに昼食としてのお好み焼き！日本では韓国のジョンを「チヂミ」として知られている。志保のお母さんからは、ネギチヂミを一度作って食べてみたことがあり、とても美味しかったそうで、今でも時々作るという。私たちの文化を好んで受け入れてくれるのは、何とも嬉しいものだった。

十分にお腹を満たし、知多の名産である陶磁器を探すべく散策に出かけた。まるで三清洞を歩いているような気分だった。美しい工房が沢山並んでいて、道に沿って並べられた、大きさの不ぞろいな陶磁器の装飾品。北村を歩いているかのような、妙な気分だった。近くて遠い国・日本。お互い背を向けている部分も多いけれど、こうして共に共有している部分も多いことを改めて教えてくれた散策だった。

きれいに整理された海辺で風を受けながらカキ氷を食べようとしたが、予約しておいた有名なお店の予約番号を忘れてしまい、餅のお菓子だけを買って帰り、回転寿司のお店に向かった。我が国で見たことがある回転寿司とは次元が違う。長く伸びたレーンに沿って4人席がいくつも並んでいて、テーブルにそれぞれ色が付けられている。また、モニターをタッチして注文すると、注文した寿司が各テーブルと同じ色の器に乗って運ばれてくる。皿の色で価格が変わる我が国とは違い、値段は皆同じ。志保が言うには、似たり寄ったりの人たちがよく来るんだそう。一般的な寿司の専門店では値段が高いが、この様なお店では普通の寿司だけでなく、天ぷらやプルコギ、ユッケの寿司など独特なものも多く、本当に不思議で面白かった。一人旅やパッケージツアーでは、まず体験出来なかったと思う。

この日の夕方、何故か韓国の教育についての話になった。志保が通訳するには辛かったと思うけど、本当にここは過ごしやすいところだと言う思いは変わらなかった。ほとんどが勉強だけを強要する我が国の両親

と、それに疲れてしまう子供たちの姿が見え隠れしている。また、私たちは経験したことのため、勉強のために学習塾を転々とするとき、日本の両親は子供たちがやりたいと言う多様な趣味活動のため学習塾に送り出す。そして、お母さんは韓国の学生が大学修能試験（日本で言うセンター試験）を受けるのに遅刻しそうになったとき、警察がパトカーに乗せてくれたと言うニュースをみてとても驚いたそうだ。日本ではどの程度遅刻が許されるのか、また、「良い大学」に対する熱意が無いのかは分からないけど、文化の大きな違いに衝撃を受けたようだ。どの教育が正しいかは、その結果を見れば分かるのではないだろうか？簡単に言えば、ノーベル賞受賞者を何人も送り出してきた日本の一流大学と、まだ1人も受賞者がいない韓国の一流大学…。20年前までは、日本の両親も似たようなものだったと言う。子供たちの勉強を最優先させる風潮。ある社会学者が「韓国は10年前の日本であり、中国は10年前の韓国だ」と言っていたのを、ふと思い出した。我が国も、徐々に変わるのではないだろうか？子供たちの真正な夢と才能を引き出す方向に、である。私の両親は、そばでは直接表現しなかったけれど、交わす会話の中で感じられる圧迫感にカッしたり、辛かった覚えがある。そんな記憶が少しずつ胸を圧迫させている気がした。「そんなことは、大学に行けば何でも出来る」とか、「少し我慢すれば大丈夫」…。ちょうどその時、スポーツが好きだと言う志保のいとこ・リョウちゃんが遊びに来たが、「韓国に行っちゃダメ！一緒にいようよ」という、冗談半分の言葉ながらも思わずジーンと来た。

最終日は、宝子・ジスと一緒に出かけた。栄と大須の町並みを歩いてみたが、ちょうど世界コスプレサミットが行われていた。沢山の人が漫画のキャラクターになり切り、暑い天気にもかかわらず色々な衣装を身にまとい歩いている姿は本当に驚いた。こうして見ると、熱意が本当にすごい。気温37度を超える日差しの下で、自身の体の2倍になるドレスを着るかと思えば、毛皮や皮製の服を着て行進する人もいた。私が最も不安だった、文化の一部を赤裸々に見る結果になった。最近の言葉で表現するなら、ここにいる間「똥붕(※)」状態であった。値段が高くて入れなかったけれど、メイドカフェもまた驚きと「똥붕」状態になった。だけど、それだけ日本の漫画は全世界に知られていて、その価値はとてつもないものなので、この文化を認めざるを得なかった。おまけに、時々インターネットの掲示板に上がってくる猟奇的なコスプレ姿よりはよほどまともだったと思う。否定を肯定とみなすわけではないけれど、少しは受け入れられるようになったかな？我が国にも世界の人たちが「똥붕」状態を引き起こす様々な文化があるのだから、その国の文化は

その国の文化として受け入れるのが正当だと思う。



送別会を終えて家に帰ると、バースデーケーキが用意してあった。この日は志保のお母さんの誕生日。おまけに14日は志保の誕生日。22日は私の誕生日ということで、3人の誕生日を一緒に祝おうという意味だった。ケーキには、3人の名前が並んで書いてあった。いつも夏休み中に誕生日を迎えるので、周りに人に祝ってもらった記憶は数えるほどしかなく、感動したし、嬉しかった。その一方で、お母さんと志保の誕生日に何も用意出来なかったのは申し訳ないことだった。たった3日間だったけど、こうして沢山の情を受けられるとは。単に通りすぎる客ではなく、家族の1人として接してくれた志保と家族に、心から感謝、感謝、感謝したい。

最終日の夜を過ごしながらか、色々と考えていた。完全に日本に対する偏見の井戸から抜け出したとは言えないけれど、4泊5日の短い旅程で本当に詰め込めないくらい多くのことを学ぶことが出来たと思う。私1人の想像で作られた誤解の多くは解消し、少しは日本という国に近づいた気分だ。志保とその家族、タカコ、真由姉さん、そして後藤さん等皆さんの韓国に対する愛によって、また、私もまた我が国に対する愛が深まり、日本に対し心を少し開くことが出来たと思う。我が国の歴史と文化、そして日本の文化に対してより知ってみたいという気持ちを引き起こしてくれた、そんなキャンプと志保と家族、そして日本の友達にはただ感謝するばかりだ。今度は、日本の言葉と文化もより一生懸命学び、貴重な美しい時間を送っていきたい。そうすれば、いつかは井戸の入り口の丸い空だけを見ていた私の心も、開かれた空を眺めながら飛び回ることが出来るよね？

※똥붕(メンブン) = 멘탈 붕괴(メンタル崩壊)の略。精神に異常をきたす程辛い状態にあること。インターネットから発祥した流行語。

今回の名古屋での交流は、本当に特別な経験だった。単に観光だけを楽しむものではなく、同年代の日本人と交流し、違和感なく日本の文化に接することが出来る、良い機会だったからだ。

おまけに、私は韓国語が上手な日本の女子大生の家に割り当てられたので、意思疎通の難しさは殆ど感じられなかった。ホームステイをして良い思い出を沢山作ることが出来たし、違う文化圏にいる友達も出来、本当に貴重な機会だったと思う。

時間が本当に早く過ぎて行ったような気がして、最終日は本当に名残惜しかった。機会に恵まれれば、必ずや再度訪問してみたいと思う。



遠くて近い国・日本。私にとって、日本とはそんな国でした。独特な文化と、親切な人が多いことを知っていたので、一度は必ず行ってみたいと思っていたのですが、福島原発事故以降、旅行は殆ど断念した状態でした。幸い、YMCAで何年間か続けている韓日文化交流に参加することになり、日本滞在を経験した今は来年の旅行の準備をするほど、また行きたいと心から思う国として印象に残りました。

4泊5日の短い期間で名残惜しく、意義深い名古屋の旅行に参加出来たことを、本当にありがたく思っています。旅行の準備で知り合った先生方や友達、日本の韓国学校の先生や友達全員に、また会いたいです。特に、私と一緒にホームステイしながら難しい通訳をしてくれた鈴木さんが恋しいです～。

来年、日本に再び行くことになったら、お母さんがプレゼントしてくれた浴衣を着て、夜通し郡上踊りを踊りたいですね。多くの日本の方々の、温かい情が感じられた旅行でした^^。



日本の土を踏んだのも初めてだし、日本語もあまり話せない私に本当に多くの方が親切に対応してくれて、嬉しかったです。ホームステイ先のご家族のお父さんとお母さんが、馴染みの薄い外国人のため韓国語で話そうと気を使って下さり、また私に忘れられない思い出とプレゼントを沢山贈って下さり、今でもただ感謝するばかりです。





今回、8月2日から6日にかけて名古屋と奈良を訪問しました。違う国で韓国の痕跡を見ることが出来て、日本という国がより身近に感じられました。日本の方々と共に行動して色々なことを学び、歴史だけでなく文化や生活する様子も見ることが出来ました。

ホストのご家族もとても親切に接してくれたし、積極的な姿に感動しました。期間が短かったのが本当に残念です。行くなら日本語も勉強しなければと思っていましたが、カナダでの生活が長く、韓国語もあまり上手じゃないので、韓国語も勉強すべきと思う思いが大きいです。

日本で会った人たちを今でも思い出し、会いたいと思っています。また行きたいです、名古屋。

## 名古屋での3日間

## 장한나 (チャン・ハンナ)

私は、日本に1回行ったことがある。中学生の頃だっただろうか。はっきり思い出せないけれど、他の家族も集まり、ガイドが同行する旅行だった。この旅行は、日本の名所を見て回り、ホテルに泊まり、ビュッフェスタイルの食事…そんな旅程だった。今にして思えば、はっきり思い出せないということは、それほど記憶に残らない旅行だったということだと思ふ。そして8月、YMCAを通じて日本へホームステイに行くことになった。ホームステイは経験がないし、日本で1人適応しなければならず不安と緊張があった。

ホームステイ初日。本当に言葉が通じず、息苦しくて死にそうなくらい言葉の壁というものを実感した。

「だから言葉の勉強は必要なんだ」ということを痛切に感じた。本当は日本語で話したいのだけど、出てくる言葉は「ありがとう」「すみません」だけ。これで乗り切れるだろうかと不安になった。こうして息苦しい初日を過ごし、翌日の朝食を頂いたが、日本の食事文化は本当に変わっている。私が客だからかもしれないが、私が食事を頂いて「美味しい」と叫ばなければ、「美味しい」と言うまで食べずに見上げている。ちょっと面白いが、負担にもなった。

理絵さんが弟を紹介してくれたが、オ・ソバン（韓国のコメディアン）のようなイメージだ。今にして思えば、韓国語は出来なかったけれど、家族の中では最も面白くてムードメーカーの役割ではなかったかと思う。その後名古屋城へ行き、最上階まで上がってみると、名古屋の全景が眺められるよう四方が開かれている。日本に来て言葉は通じなかったけど、心は開かれたようだった。それから、日本の「清水屋」というスーパーに行ってみたが、とても不思議だった。CDショップに行ってみると、韓国のアイドルのCDが沢山あって驚いた。理絵さんは、韓国のアイドルを殆ど



知っていたが、私は理絵さんが日本の歌手を知っているかと聞いてくる度に「すみません」と答えるしかなく、申し訳なくて少し悲しかった。こうして買い物を終え、家に帰るとこの近くで盆踊りが行われると聞いた。お父さんが行ってみよう誘ってくれたので、家族全員で行ってみた。運動場のようなところの真ん中に舞台のようなものが設置されていて、その回りを人が「강강술래 (カンカンスルレ=全羅南道の伝統の踊り)」のように回って踊るのだけど、大勢でリズムに合わせて踊るのがすごい。理絵さんもこの踊りを踊れるのだけど、調べてみると日本では国民的な踊りに通じるのだと言う。また、運動場の外側にはテントが張られ、大人と子供が輪投げや水風船、釣りなど独特なゲームを楽しんでいた。そして、理絵のお母さんは私を友達に紹介すると言ってあちこち連れて行ってくれた。急に日本語の洗礼を受けたので混乱していたが、本当に楽しい時間だった。そして、理絵さんが通っている韓国語の教室に連れて行ってくれたのだけど、

そこでノリコさんとヤン・ヘミさんに会った。お二人は、日本で会った方の中で一番面白い方ではないかと思う。

最終日の交流の夜、韓国人と日本人が共に食べて飲んで遊び、とても楽しかった。ヤン・ヘミさんとノリコさんが来てくれたので、本当に楽しかった。しかし、理絵さんはお酒を飲み続けている。聞けばとても名残惜しくてと言いき、私も悲しくなった。こうして交流の夕べは終わり、翌日の別れ際、理絵さんが私の日本語

をほめてくれた。本当に嬉しかった。

こうして後で記憶に残るホームステイになり、日本に対する新しい面を知ることが出来た。私が以前に出かけたパッケージツアーとは違い、日本の家庭の文化、日常生活、日本人の文化、言語等…一般的な旅行とは比べ物にならないような経験が出来たし、後悔しない旅行になったのは良かったと思う。

次回も機会があれば、もう一度経験してみたい。そう思った。

## 初めての海外旅行

신승리 (シン・スンニ)

初めての海外旅行で、緊張もしていたけれど、それよりも期待の方が大きかった。他の参加者は大学生と聞き、最初は心配だったけど、先輩方も皆良い方たちばかりだったので、楽しく参加することが出来た。

日本人は親切だと聞いていたけれど、本当にそうだった。なので、不自由なく4泊5日が過ぎていった。ホストとして受け入れてくれた嘉恵さんの家に服を忘れてしまったようで、日本から荷物が届いた(笑)。

日本で感じたことは、自動車の運転席が右側にあり、最初バスに乗ったとき、左側に座っていた方がしきりに後ろを見ていたのでちょっと不安だった；；^^。だけど、右側に運転席があると知って安心した。

そして、日本は韓国と違ってアパートよりも住宅が多かった。狭い土地を使い、かつ高く立てた点も注意深く見守るべきだと思う。他にも、日本では野球が人気があるようで、家の近くの小学校で野球部の試合があったのだけど、ユニフォームや帽子まで完璧な姿を見せていて、やはり違うと思った。奈良で見た鹿たちも、大きく印象に残った。また、日本は自販機が本当に多く、中には不思議な自販機もあった。タバコやパン、アイスクリームの自販機など、韓国では見られない^^。



日韓市民ネット主催の交流の夕べも、とても楽しかった。これまであまり話していなかった先輩たちとも、親しく慣れたような気がした。日本に来て、本当に良かったと思う。外国へ行くと、食べ物が口に合わなくて辛くなることもあるけれど、キムチがあったからか、あるいは体質なのか、不便なことは全くなかった。もし機会があれば、いや、日本語を独学で勉強してまた行きます。必ず！友達と一緒にいくと約束したから～。

今回のキャンプに参加させてくれた両親、叔父さん、そしてYMCAの皆さんに、感謝しています。本当に最高のキャンプでした～^^。





今回、光州YMC Aから参加した日本への旅行は、本当に意義深い時間でした。ホームステイしているときの時間も大切でしたし、別れも名残惜しかったです。結構暑かったけど、楽しい旅行でした。

\*\*\*\*\*

※ 光州学生訪問団から寄稿頂いた感想文について

意識している部分があります。なお、人名について確認出来ない部分についてはカタカナで表記しました。また、一部の固有名詞は推測で表記している部分もあります。ご了承下さい。

翻訳担当 & 写真提供 山田雅樹

## ☆光州学生訪問団☆

## ホストの感想文

ホームステイを終えて

内藤久美子

「キリンジ」という日本のバンドをご存知の方はどの位おられるでしょうか？ キム・ミンソン氏からこのバンド名を聞かされた時思わず「えっ？誰？」と聞き返してしまいました。ラジオやライブなどで活動を続ける日本の兄弟バンド(ユニット)だそうです。

初日の晩、彼女があまりに日本語が堪能なのでその理由を聞いた折に出てきた言葉でした。ネットで日本のバラエティ番組を見、ネットラジオで日本のミュージシャンの歌を聞き日本語を覚えた、これまた流暢な日本語で話す彼女の話、私たち夫婦はつつい聞き入り、(引率で疲れていたでしょうに)気がつくと言った間に11時を過ぎていました。来訪前、韓国語で何とか会話しようと構えていた私の意気込みは、こうして早くも初日に消え失せ、結局、殆どが日本語で会話という、しかしそれはそれで楽しい4日間でした。

彼女の喋る言葉は、カタコトの日本語でもなく、お笑い好きの割には関西訛りも無く、まるで日本人そのもの。翌日訪れた小原村や有松でも、何不自由なく日本語の説明を聞き、読み、感服です。日本の事も良く知っているのが会話をしていても楽しく、時々ふっと身内と気軽にお喋りしているような感覚にさえなりました。そしてそれは多分に彼女の人柄による所が大きいでしょう。細やかな心配りと温かな人柄は、5日のパーティー時、引率の学生たちに見せたちょっとした仕草にも感じられました。

今回、ミンソンさんは、引率チーフとして本当に大変だったと思います。ステイ中の間だけでもゆっくりくつろいで楽しんで頂けたなら幸いです。いつかまた再会できる日があれば良いなと思っています。その時は、日本語だけでなく今度は韓国語でも楽しく会話できるよう、彼女のアドバイスに従って、私もネットで韓国のバラエティを覗きながら勉強していきたいと思っています。

素敵な4日間を提供していただいた日韓市民ネットワーク・なごやの皆さんに感謝いたします。



8月2日から1泊2日の奈良旅行、3日から6日までのホームステイの5日間という短い時間でしたが本当に楽しく、韓国についても深く学ぶことができ、大切な友達がたくさんできました。空港で出迎えてバスに乗ってからまだまだお互いに人見知りで、目があったり微笑みあうだけでバスの中も静かでした。『どうやって話しかけよう、何の話をしよう、、、』と宝子と戸惑いながら観光をしていました。奈良では平城宮や法隆寺、東大寺などを観光しましたが、学校で学んでいたことに加え韓国とそのお寺とのつながりを初めて知ることができ、さらに通訳のキム先生が韓国語に訳していたのでとても勉強になりました。そんな中、なかなかしゃべれずぎこちない私達もやはりお酒の力を借りて一気に仲良くなれました。花火もして流れ星もみてお互いの国で流行っていることの話もして、とても印象深い日でした。改めてお酒に国境はないなど実感できました。本当に楽しくて次の日からは前日に初めて会ったとは思えないほど仲良くなっていました。ホームステイではソンウンオンニがうちに来ました。オンニは頭がよくて私達家族が話している会話も聞いて、日本語ができないながらもなぜか少し理解しているようで怖かったです。ボクシングをしているということで私のいとこの家にサンドバックがあったので遊びに行ったらバシバシなぐって、夜は花火もしました。地元の常滑やきもの散歩道を歩いて観光したり、少しでしたが海に行ったら眺めたりしました。夜ご飯は回転ずしに行ったら、韓国語の勉強と日本語の勉強でネタについて勉強しあいました。



日曜日には宝子とチスと一緒に4人で名古屋観光をしました。栄に行ったらその日はちょうどコスプレサミットというものが開催されていたので世界各国からコスプレをした人々が集まっていたのであまりの完成度と人々の多さに私達もオンニもチスも唖然でした。大須に行ってもパレードをしていてゆっくり見ることはできませんでしたが、メイド喫茶をみたりプリクラもとってお昼には矢場とんを食べたりしました。栄の観覧車にも乗り少しは名古屋について知ってもらえたかなと思います。案内した自分も本当に多くのことを学べて貴重な経験ができました。楽しかったという言葉では言い切れない、文面だけでは伝わりきれない思いがたくさんありました。本当にありがとうございました。また参加したいです。

## Anjela と過ごして

鈴木 二葉

平成24年8月3日（金曜日）から、6日（月曜日）まで召喚唄さんが、我が家に来ました。背が高く、髪の毛の長い女性です。現在トロント大学に在籍し、夏休みを利用して光州に帰ってきているそうです。そこから、日本に来たそうです。



私の韓国語は挨拶程度で、日常会話には程遠い状態です。それなので我が家では召喚唄さんをニックネームの Anjela と呼び、英語でコミュニケーションを取りました。幸いフィンランドから帰国した17歳の上の娘が英語が話せ、また年も近いので、話が合ったようです。また英語ならば、夫や息子、下の娘も少しは理解できるので、助かりました。

4日（土曜日）は、上の娘と Angela 二人で大須に行き、世界コスプレサミットを見学したり、プリクラを撮ったりと楽しんだそうです。Angela は毎年ハロウィーンでいろいろ工夫した衣装をしているみたいで、面白かったと言っていました。晩ごはんは、手巻きずし。（Angela は、お肉が食べられないということで、魚・野菜が中心となった食事を準備しました）Angela は、私が食事の準備をしていると「何か手伝いましょうか？」と言をかけてくれ、またいろいろ気遣いができる娘さんで、一緒に過ごせうれしく思いました。また、我が家には「ラニ」というミニチュアダックスがいるのですが、ラニは Angela にすぐになつき、いつも彼女にまわりついていました。Angela も犬が



飼いたかったそうで、ラニにやさしく接してくれ、なかよしになっていました。

## ハンナさんとの夏の思い出

才野木 理絵

今回、初めてホストを引き受けました。韓国語教室の先生からこのような交流団体があり、ホストを募集していると聞き、かなりの興味と好奇心でやろうと決めました。

韓国ドラマが好きで韓国語教室に通い始めて、半年。自分の勉強とお互いの良い経験になるのではないかと、期待と不安でいっぱいでした。

ハンナさんを初めて見た時、まじめそうでクールな印象でした。ハンナは不安そうな表情をしていて、私も大丈夫かな…と不安になりました。

お互いが緊張し、ぎこちないところから私たちの3泊4日は始まりました。

家に着くと母がいきなり日本語で話しかけ、ジェスチャーまじりでお風呂を説明し、母の料理を父母弟私とみんなで食べました。まるでオモニのようでした。ハンナさんは、美味しい美味しいと言ってご飯を食べてくれました。「いただきます」「ごちそうさまでした」と日本語でしっかり挨拶をしてくれて、私たちも嬉しい気持ちになりました。母はかわいいと大絶賛でした。

父も英語で韓国のスポーツ選手の話などし、私も教科書とスマホ片手に会話をし、徐々に緊張が解けてきました。夕飯後レンタルショップに行き、人気の俳優や好きな俳優の話をしました。

次の日は、私の韓国語教室と一緒にきました。昼からは家にお寺のお坊さんが来たので、挨拶をしたところ、お坊さんが流暢な英語で話し始め、ハンナも私も驚きでした。近所のスーパーなど買い物に行って、夕方から地元の盆踊り大会へ行きました。韓国語教室の友人も来てくれて、近所の人たちとみんなで交流会になりました。かわいくて礼儀正しいハンナはうちの地元の人気者になりました。携帯電話で熱心に、盆踊りやお雛の様子をムービーにとっていました。水風船をやって、「マジで楽しい～」と私の大学2年生の弟と日本語で盛り上がっていました。韓国語の発音練習もしてもらい、良い交流の時間となりました。

5日（日曜日）は瀬戸の「ノベルティ・こども創造館」に行きました。午前中は陶器でできた金魚すくいをしました。お昼ごはんは名物瀬戸焼きそばと、五目ごはん、そしてお好み焼きを食べました。午後は、ノベルティ制作体験ということで、鑄込み体験と白生地に絵付けをし、かわいい金魚が完成しました。夜は、日韓市民ネットワーク・なごやのパーティに。たくさんの方とお会いすることができ、とても楽しい会でした。また、たくさんのお料理がおいしかったです。

そして最後の6日。娘と Angela はセントレアに向かうため、朝、駅に送り、そこでお別れしました。別れの言葉の後、Angela の後姿を見ると淋しさがこみ上げてきました。短い間でしたが、とても楽しい交流でした。このようなよい機会を設定して下さった後藤様をはじめ日韓市民ネットワーク・なごやの皆様にお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

その頃にはすっかり、最初に感じていた不安も一切無くなっていました。

日曜日は、家族全員で郡上八幡へ遊びに行きました。サンプル作りでてんぷらを作ったら、とても喜んでいました。郡上の日本らしい町並みも見ることができて、良かったと思います。川の飛び込みも見ました。日本のラーメンも食べるのができてよかったです。

あっという間に時間は過ぎ、日本語で「大変お世話になりました」「本当にマジで楽しかった」「お母さんの料理全部美味しい」と言ってくれて、私たち家族は本当に嬉しかったです。お別れは本当に寂しかったです。

ホストを務めて、生きた韓国語に触れ、教科書や韓国ドラマでは分からないことが、たくさん勉強になりました。人と人が交流して、初めて分かることがたくさんあると思いました。本当に良い経験と思い出になりました。またハンナさんに会えるのを楽しみにしています。



8/3-8/6の3泊4日の間、光州から遙々、名古屋の我が家にやってきた昇利（スンニ）さんは、とても元気な中学3年生の女の子でした。学生の一団には大学生が多い中、心細くはないだろうかと思いきや、中学1年生の弟さんや、いとこのお姉さんも一緒に参加していた事もあるのか、本人にとって初めての海外旅行でありながら、不安や緊張で固くなる事なく、対面当初から比較的、精神的にリラックスしていました。彼女は、正に15歳という若さの好奇心旺盛な現代っ子で、食べる物一つにしても、新しいものにためらわず気軽に挑戦してみようという姿勢や、日本で見たい物、体験してみたい事を積極的に伝えてくれる様子から、順天市の家では、お父さんお母さんに普段、明るくのびのびと育てられているのだなと感じました。

日本については、日本の歌手、俳優、アニメ等についてよく知っていました。スマートフォンでインターネットを手軽に利用できる現代、彼女も他の同年代の現代っ子に漏れず、気になる事はすぐにスマートフォンで検索したり、好きな日本のアニメもスマートフォンにダウンロードして見たりしていました。家で過ごしている間は殆どの時間、彼女がずっとスマートフォンを見続けているので、ひょっとして会話の内容も一通り尽きて退屈なのではと一時心配し、時々色々と話しかけてみましたが、それでもやはりスマートフォンを片時も離さなかったもので、考えてみれば、これも現代っ子である彼女の普段通りの時間の楽しみ方なのかも知れないとも思えました。スンニさんは名古屋についても、あらかじめインターネットで調べていて、

ミッドランド・スクエアの展望台や、山崎マザック美術館へ行ってみたいという要望だったので案内しました。名古屋を案内するならば、名古屋城等、歴史的に名古屋を代表する場所へ案内しようかと、あらかじめ考えていましたが、彼女にとっては、日本の伝統的なものよりは、正に現在の先端のものの方に関心があったようで、山崎マザック美術館やミッドランド・スクエアを訪れ、新しく現代的な建物を見て、とても満足してくれた様子でした。私自身、日頃名古屋に住みながら、これまで山崎マザック美術館はおろか、ミッドランド・スクエアの展望台にも行った事がなく、今回、スンニさんのおかげで、一旅行者の気分で名古屋見物をする事が出来、とても楽しかったです。名古屋を案内する際には、名鉄と地下鉄にりましたが、電車に乗る体験も新鮮に感じてくれた様でした。名鉄や地下鉄の駅に置いてあるフリーペーパーや広告等、旅の記念にと色々沢山持って帰っていました。彼女によれば、将来、第3外国語を選択する際は、中国語をと考えていたけれど、今回の旅行がきっかけで、日本語にしても面白そうだと言っていました。またいつか、大学生になる頃、自分でアルバイトをしてお金を貯めて、日本に遊びに来たいとの事でした。

3泊4日という短い時間の中で、スンニさんにしてあげられた事はわずかな事でしたが、日本という国に若干でも好印象を持ってもらえたなら、本当に幸いです。彼女の人生の中で、この旅行が、ずっといい思い出となって残ってくれたらと思います。

未来のソッキュ君へ ————— 山田 雅樹

ここ数年、我が家でも韓国の学生のホームステイを受け入れているが、今回来てくれたシン・ソッキュ君は中学1年生の男の子。今まで来てくれた学生の中で最も若い。彼が帰った今でも思う。「楽しんでくれただろうか」と……。



土曜日は、彼を大阪へ連れて行った。この旅行は、僕が通う韓国学校の行事で、今年はホームステイと重なったため、連れて行くことになった。大阪では、鶴橋や桃谷（ももだに）等のコリアタウンを散策した。ここは、いわゆる在日僑胞（在日韓国・朝鮮人）の方が多く住んでいたり、商売している地域なのだが、彼は在日僑胞の存在を知らなかった。後で聞くと、在日僑胞については3年生の社会で習うという。

ソッキュ君、君はこれから韓国と日本の歴史について学ぶことになる。色々思う部分は沢山出てくるだろうけど、どうか日本のことは嫌いにならないで欲しい。また、僕の周りには在日僑胞や韓国の言葉や文化、歴史について熱心に学ぶ日本人が沢山いることも覚えておいて欲しい。ソッキュ君が韓日の歴史を学び、何を感じたか。再会したときに、ぜひ聞いてみたい。それまでに、僕も韓日の歴史を勉強しなければ。

## 映画「道・白磁の人」を鑑賞しましょう！

～ 韓日歴史・文化フォーラム 30 回記念映画上映 ～

戦前の韓国で、現地の人々に最も愛された日本人は林業技師 浅川 巧（あさかわ たくみ）だったと言われます。山梨出身の彼は、京城（今のソウル）にある林業試験場の技師として荒廃した山々の緑化に心血を注ぐ一方、韓国の陶磁器や木工品の美を発見、日本の民芸運動の創始者、柳 宗悦（やなぎ むねよし）と共に韓国の伝統文化の保存の必要性を訴えていきます。

彼は韓国人を蔑視する風潮の中で、韓国語をマスターし、韓国人の同僚ばかりか一般民衆と親しく交わり、深く敬愛されていきます。韓国の山と民芸を愛し、40 歳という若さで韓国の士となった 浅川 巧こそ日韓友好の原点とも言うべき人物です。

映画で 浅川 巧 を演じたのは個性派俳優の 吉沢 悠（ひさし）、彼の無二の親友の韓国人を演じたのは、韓国ドラマ 朱蒙（チュモン）や 善徳女王などで好演し、日本女性のファンが多い ペ・スビン です。

韓日歴史・文化フォーラムは、私たち日本の市民と愛知民団が永年にわたって協力し運営してきました。今回のフォーラムは、その 30 回目の記念として 浅川 巧 と韓国人の友人達との熱い友情を描いた映画を上映することで、これからの日韓交流を考えるひとつのきっかけにしたいと思えます。会員の皆さんはぜひ ご覧いただくようお願いいたします。（なお、この映画を上映する部分は、名古屋韓国学校の 50 周年記念事業でもあります。ご了承ください。）



今、わたしたちは、浅川巧の歩いた道の、その先を歩いているだろうか。

## 映画「道・白磁の人」上映会

- 日 時** 11月3日（祝）15：00 から上映  
※ 14：40 までには着いていて下さい。
- 場 所** 愛知韓国人会館 5 F 大ホール  
※ 地下鉄東山線亀島駅・3 番出口から徒歩 1 分
- 参加費** 500 円を当日支払っていただきます。  
※ 映画館では 1800 円でしたが、フォーラムの通常 500 円を受け継ぎます。



# 회원마당 会員の広場

こちらでは会員の皆様の声を載せております。皆様から、「会員のみんなに伝えたい!」「韓国のここが好き!」は勿論、「こんな旅行して来た」等、日々の暮らしの様子などの皆さんの声を是非、お送り下さい。

## 肌で感じる韓国 ～ ただいま留学中 ～

学生会員 石田樹梨

私は今年の2月から交換留学で、京畿道富川市にあるカトリック大学に留学しています。学期中は学部の授業と、午後には韓国語の授業を受け、夏休みには午前中に4時間ずつ韓国語の授業を受けました。学校にも友達を作りたいと思った私は、サークルに入ることにしました。どのサークルに入るか迷いましたが、一番興味のある野球のサークルに入りました。韓国の野球のサークルは、高校までの学校生活で野球をする人が比較的少なく、大学に入ってから初めて野球を始める、という人が多いと感じました。練習も、日本では運動しやすい服でしますが、韓国では私服で練習する人も多く、日本よりも自由という感じです。

また、私は韓国のプロ野球にも興味があり、韓国人の友達や留学先で知り合った日本の友達たちと一緒に、学校から一番近い仁川文鶴球場に何回も野球を見に行きました。韓国のプロ野球は応援席1万ウォン、自由席でも8千ウォン（もっといい席は2万ウォンくらいします。）で野球が見ることができるのでとても安く、楽しく野球を観戦することができます。日本のプロ野球と違うところは、韓国にはドーム球場がなく、日本のプロ野球は飲食物など持ち込むことは出来ませんが、韓国は飲食物を持ち込むことができ、球場ではピザやチキンなどを食べる人が多いということです。ちなみに、韓国人の友達から教えてもらいましたが、野球を見るときには、チキンとビール（韓国語で치맥: 치킨+맥주）が定番なのだそうです。

そして、空いている時間や休みの日には、韓国人の友達と会ったり、旅行に行ったりしました。韓国人の友達と出かけてみると、韓国にはカフェの店がとても多く、ご飯を食べた後には必ずと言っていいほどカフェに寄って話をするということがわかりました。



私はそのようにカフェで美味しく飲み物を飲みながら、何時間も友達と話をする韓国の文化がとても好きです。また、旅行はソウルのほうだけではなく、仁川・大田・全州・益山・群山・鎮安・公州・扶余・釜山・順天・大邱・江陵、そして世界万博が行われた麗水まで行って来ました。私が万博に行った日は27万人と比較的入場者数が多い日でした。麗水は海に面しており、海も綺麗で、万博の中にはソーラーカーのバスに乗ったり、海水を濾過して飲み水にする機会などもあり、実際に試飲することができる所もありました。試飲する際に配られるコップは記念に持ち帰ることも出来ました。日本館もやはり気になり行って見ましたが、お昼頃に行ったのに、午後4時からの整理券しかもらうことが出来ず、とても人気でした。私は、万博ではあまり多くのパビリオンを見ることは出来ず、少し残念でしたが、日本館のアテンダントの日本人の方が話す韓国語がとても上手で、私もあのように韓国語をもっと上手く話せるようになりたいな、とまた一つ目標が増えました。私の留学期間は12月までのあと4カ月。残りの4カ月も韓国人の友達と交流しながら、たくさん旅行にも行き、日本では感じられない韓国を肌で韓国を感じていきたいです。



会報 62 号は 後藤和晃 統括幹事 総合指揮のもと

原稿翻訳・入力 山田 雅樹  
入力 ・ 印刷 武田 章敬  
編集 ・ 発送 伊藤みつ子 が

担当いたしました。お気づきの点等ございましたら事務局・伊藤まで、お知らせください。